

やけど した!



すぐに

医療機関を受診したほうがよい場合

- ・ 熱傷の程度が軽くみえても広範囲の熱傷。（大人の手のひらより広い範囲）
- ・ 範囲に関わらず、熱傷部分が白、もしくは黒くなっている。
- ・ 痛みが強い。水ぶくれができています。
- ・ 顔面、関節部分や手のひらなどの熱傷。
（皮膚の引きつれがおこり動かしにくくなる可能性がありますので、早めに受診しておきましょう）
- ・ 熱傷の重症度判断はきわめて難しいので、判断がつかない場合は病院を受診しましょう。



ホームケアのポイント

- まずしっかり冷やしましょう
 - ・ 流水（水道水）や氷などを利用して、最低20～30分間以上冷やしましょう。
（市販されている冷却シートは、やけどには使えませんので注意してください）
 - ・ 服を着たままの熱傷の場合、服を脱がせづらければ服の上から冷やします。
- 熱傷面積が手のひらより狭く、水ぶくれがないときは、救急受診の必要はありません。
よく冷やしてあげて、診療時間内に受診しましょう。
- やけどのときしない方がいいこと
 - ・ 民間療法は極力しないようにしましょう。（アロエや油をぬる、など）
 - ・ 熱傷部位にさわらず、水疱を破らないようにしましょう。
- 使い捨てカイロや、ぬるい湯たんぽでも、長時間あたると低温やけどになることがあるので注意が必要です。

